

財団だより

第135号

2012.9

多摩川



Photo & Text
遠藤 穎彦 (Hidehiko Endo)
渋谷区在住

■ 是政の多摩川 ■

是政橋付近から上流方向を望むと、前回大丸の堰を撮影に行く為急いで通り過ぎてしまったここ是政の地。

そのむかし是政の渡しのあったと云うこのあたり。ゆったりと蛇行する多摩川の流れを足元に、新しくなった是政橋を渡りながら見る、是政橋・南武線鉄橋の二つの橋梁が架かったその落ち着いた雰囲気は、多摩川の中流部を代表する景観です。

Contents 目次

■ 巻頭言	2
■ 特別寄稿	3
■ 多摩川に学ぶ	4
■ 多摩川散歩	5
■ 私と多摩川	6
■ 歴史・多摩川	7
■ 多摩川スケッチ散歩 (7)	8
■ 環境 TOPICS	10
■ インフォメ多摩川	11
■ 財団からのお知らせ	
2013年度助成研究募集	15

巻頭言



NPO法人森は海の恋人
理事長

畠山 重篤

心の森

昨年秋、林野庁から思いがけない連絡をいただきました。国連が国際森林年にちなんで五大大陸から一人ずつ森林保全活動をしている民間人をフォレストヒーローとして表彰することになり、貴君を日本代表として推薦したいのですがいかがでしょうか、というのです。

平成元年から行ってきた漁民による植林運動や子供たちへの環境教育活動が国際舞台で認められるかも知れないのです。仲間と相談するとそれはぜひ受けるべきだという声が多く、了承することとしました。



仲間の一人がしみじみ言いました。大震災被害に際しての応援という意味があるかもしれないけど、縦割り行政の中では絶対ありえないことだよな。林野庁が漁師を日本代表に推薦するなんて…。やっとな国も、森川海を一つの系として捉えるようになったんだなあ…。でも日本代表となっても、アジア代表にならないとフォレストヒーローにはなれないのだから、まだ喜ぶのは早いよ、と語るのです。

心配はその通りになりました。今年になりアジア代表は三人に絞られ、その中の一人に入ることがわかりました。授賞式は二月九日ニューヨーク国連本部だそうです。しかし、一月中旬になっても内定の知らせがありません。国連でも採めているんだよ、漁師がなぜフォレストヒーローかって話だろうと思うよ。駄目かもしれないね、とくらい空気が流れはじめたのです。

一月二十日過ぎ、やっとな内定の知らせがあり、

ホッとしました。あたふたと準備をし、林野庁の職員に伴われて初めてのニューヨーク行となりました。

国連本部でほかの受賞者の方々と顔を合わせました。南米アマゾンの熱帯雨林を盗伐から守った人、ロシアのタイガに暮らす少数民族を開発から守った人など、どちらかという体制に反対し勝利した文字通りのヒーローたちです。

国連の偉い人から受賞メダルをかけてもらうと一人ずつ短いスピーチをさせられます。武勇伝のようなスピーチが続き、最後に私の出番となりました。



牡蠣を養殖している漁師の立場から、世界には三つの森林があると思っています。一つは山の森、二つは海の中の植物プランクトン、海藻



の森、三つ目は、川の流域に暮らす人々の心の森です。私たちは川の流域に暮らす子供たちを海に招き体験学習を通して子供たちの心に木を植え続けてきました。そして赤潮にまみれた海を蘇らせました、と語ったのです。

思わぬ大きな拍手が会場から寄せられ、びっくりしました。森は海の恋人運動が世界から認められたのです。

多摩川的环境改善もつまりは流域に暮らす人々の意識の問題です。

多摩川がきれいになれば、東京湾も蘇ります。

多摩川流域に暮らす人々の心の森が大きく膨らむことを願っております。



24年植樹祭

特別寄稿

多摩川のアユ、 調査開始以来過去最多！



国土交通省関東地方整備局
京浜河川事務所
河川環境課 地域連携係長

近藤 貴洋

多摩川は、山梨県笠取山を水源とし、東京湾までの幹川流路延長 138km の一級河川であり、主に東京都、神奈川県を流下する都市河川である。

今年、京浜河川事務所が多摩川の調布取水堰で行ったアユ遡上数調査では、平成 18 年の調査開始以来最多の推定約 285 万尾が確認された。推定遡上数は、平成 21 年調査で約 47 万尾まで減少したが、その後は増加傾向にあり、今年は平成 23 年調査結果と比べて約 65 万尾の増加が確認された。

調査は、平成 24 年 3 月 23 日から 6 月 12 日までの期間、多摩川の最も下流に位置する調布取水堰上での目視によりアユをカウントし、遡上数の精度確認を行った上で推定遡上数の算出を行った。

アユの遡上数増加の詳しい要因は分かっていないが、下水道処理施設の整備等に伴う水質改善や、地元漁協による産卵床の整備などが遡上数増加の要因と考えられる。

魚道改良後の状況（二ヶ領上河原堰左岸）

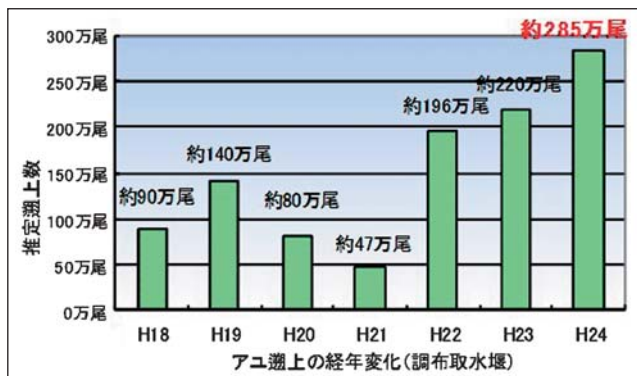


平成 24 年 6 月撮影



ハーフコーン式魚道

また、多摩川においては平成 3 年度に全国に先駆けて魚類の遡上・降下環境の改善を目的とした「魚がのぼりやすい川づくり推



アユの遡上状況（平成 24 年 6 月）

進モデル河川」に指定され、以後河川の横断工作物に魚道の整備が行われてきたことにより、上流域においてもアユなどの回遊魚の遡上を確認できるようになるなど、魚類の遡上・降下環境が大きく改善されたことも遡上数増加の要因の一つではないかと考えている。

整備した魚道については、完成後も正常な機能を維持するために、適切な維持管理が必要である。そのため、平成 19 年度に多摩川水系の魚道管理関係機関が集まり魚道管理連絡会を設置し、魚道維持管理方策の基本的な考え方を示した「多摩川魚道管理ガイドライン(案)」を策定し、水系全体で統一した魚道維持管理を実施している。この連絡会では魚道管理関係者が一堂に会して、魚道の維持管理方策について検討し、水系全体で定期的に同一の視点で維持管理を実践している。

多摩川においては、近年アユの遡上数が大幅に増加し、テレビや新聞等でも報道されるなど、市民の河川環境への意識も高まっている。都市部に残された貴重な自然空間である多摩川の生態系を保全するため、沿川自治体、関係者、市民と相互に連携し、今後も継続的に適切な魚道維持管理を実施していくとともに、更なる河川環境の改善を図っていきたい。

国土交通省 京浜河川事務所 HP
<http://www.ktr.mlit.go.jp/keihin/>

多摩川に学ぶ

「新版 東京都の蝶」に見る 東京都の蝶の盛衰



西多摩昆虫同好会
代表 久保田繁男

1991年に西多摩昆虫同好会編「東京都の蝶」を発行してから20年になります。本は既に絶版となり、その後東京都の蝶相も当時とは様相が大きく変わりました。そんなことから、前書を全面的に書き直すこととし、1991年以降に発行された文献を整理するとともに、2011年には会員及び協力者計約60名による調査を行い、この結果をふまえて2012年5月末に「新版 東京都の蝶」をけやき出版から発行しました（定価1800円・税別）。巻末には市区町村別の東京都蝶類分布一覧表も掲載しています。

1960年代前半に絶滅した多摩川中流河川の蝶

前書発行の時に、東京都から既に絶滅している蝶が7種いました。このうち真っ先に姿を消していたのがシルピヤシジミとミヤマシジミでした。両種とも多摩川中流の河川敷や堤防の周辺で見られた蝶です。シルピヤシジミの食草はミヤコグサ、ミヤマシジミの食草はコマツナギです。いずれも洪水の度に攪乱され裸地化するような河川敷と堤防の周辺に生えていました。今では見ることは少ないですが、食草の衰退に先駆けて両種の蝶は1960年代前半に多摩川中流の河川から姿を消しました。堤防周辺の草刈が除草剤散布に置き換わったためとも言われますが、堤防外側の市街地化により、台風などで河川敷が冠水した時に堤防外側に残る発生地が失われたことによると考えられています。

1960～70年代の開発による蝶の絶滅

多摩丘陵の開発により雑木林の蝶ギフチョウが絶滅しました。西多摩の一角に残っていた草原の蝶オオウラギンヒョウモンもこの時代に絶滅します。疎林性の蝶クロシジミも武蔵野台地では1970年代に絶滅し、丘陵部でも絶滅が危惧される状態になります。当時は平地から丘陵部の市街地化及び開発による蝶の衰退が大きな問題でした。

山地草原性蝶類の衰退の始まり

この当時から山地草原性の蝶の衰退も始まっています。八王子市陣馬山に生息していたアサマシジミ（食草：ナンテンハギ）は1970年代半ばには姿を消します。



1980年代



2000年代

雲取山のお花畑 1980年代と2000年代 撮影：堀口行雄
檜原村笹尾根に残るヒメシジミも1980年代半ばには姿を消しました。陣馬山のアサマシジミがいなくなった原因は不明ですが、檜原村のヒメシジミ絶滅は茅場の森林化による草原環境の消失が原因です。

森林化とシカによる植生破壊のダブルパンチ

前書発行の時には、都市近郊と丘陵部の開発による蝶の衰退が危惧されましたが、現在は多摩川上流の山地草原性蝶類の衰退が最も危惧されています。2000年代に入ってから、新たにスジグロチャバネセセリ、ヘリグロチャバネセセリ、コキマダラセセリの3種の蝶が絶滅した可能性が高くなっています。

茅場が放置されて森林になり、森林が伐採されないことによる山地草原の縮小、山地稜線部の防火帯の草原環境の消失、雲取山石尾根のシカ食害による植生変化などが原因です。



スジグロチャバネセセリ

写真 1990.7.28 檜原村榎寄山 撮影：倉地正

多摩川散歩

■ 森の恵みを人の健康に活かす ■



(一財)おくたま地域振興財団
事務局長 原島 滋隆

ハイキングや散策などで森の中を歩いたことのある方は、歩いた後癒されたと感じたのではないのでしょうか。この効果はこれまで「森林浴」として親しまれてきましたが、この効果を科学的に解明し、こころと身体の健康に活かそうという取組みが「森林セラピー」なのです。

これまでの研究で森林浴をすることによって、免疫細胞であるNK（ナチュラルキラー）細胞が活性化すること（日本医大の李氏らの研究）ストレスホルモンが減少しリラックスすること（千葉大学宮崎氏、森林総研香川氏らの研究）など、森は人のこころにも身体にもよい効果があることが分かっています。

「森林セラピー」は認定制度となっており、実験によって森の効果を科学的に証明しなければ認定されません。つまり、森林セラピー基地は、森の持つ癒し効果が科学的に証明された森なのです。

一方、現代社会において人々は、仕事・人間関係など日々様々なストレスに晒され、癒しやストレス解消を必要としていると思います。

都心から近く、森林や清流など自然に恵まれた奥多摩町では、森の恵みを人々のストレス解消・病気予防・健康増進に役立てるため、平成17年度から本事業に取組み、平成20年4月に東京都で初となる森林セラピー基地の認定を受けました。その後、この事業を行うため当財団が平成23年2月に設立されました。

当町の事業では、ストレス解消のため、日頃多く使われている交感神経を休ませ、五感を使いながら森林内をゆっくりとしたペースで歩いていただきます。（日常生活では、様々な騒音や臭い、満員電車での接触など、五感を使わないというより、むしろ閉ざしてしまっているのではないのでしょうか？）

この方法を実践するため、町認定の専門ガイドである森林セラピーアシスター制度を創設しました。このガイドウォークでは途中、呼吸法や医師がブレンドしたハーブティを楽しむ「森のティータイム」も取入れ、よりリラックスできるようご案内します。



ガイドウォーク

他にも、「森林ヨガ」「星空浴」など森という環境を積極的に活かしたプログラムもご用意しております。また、食についても、地元食材を積極的に利用し、低カロリーでバランスが良くなるよう管理栄養士が指導した「セラピー弁当」や自然食である「そば打ち体験」など身体に良いものを召し上がっていただきます。

この取組みの結果、参加された皆様から高い評価をいただき、近年では通常のツアーの他、企業等の福利厚生・予防的メンタルヘルスケアから自然教育に至るまで幅広いご利用をいただいております。



森林ヨガ

現代人にストレス解消は必須だと思います。今後ともより内容を充実させ、一人でも多くの方のお役に立てるよう取組む所存ですので、是非一度ご参加ください。

最後にこれまで本事業にご協力いただきましたすべての皆様はこの場をお借りして感謝を申し上げます。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
一般財団法人おくたま地域振興財団
〒198-0212 東京都西多摩郡奥多摩町氷川 1421-2
Tel.0428-83-8855 Fax.0428-83-8856
<http://okutama-therapy.com/okutamazaidan.php>
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

私と多摩川

地域の資源と課題をお金と雇用に変える「天狗の鼻 棒かりんとう」の仕組み

株式会社MNH 取締役社長

小澤 尚弘

東京・多摩地域の誇る観光地「高尾山」で、昨年の4月から発売している「天狗の鼻 棒かりんとう」。高尾山のシンボルキャラクターである天狗の鼻をかりんとうに見立てて商品化。今では高尾山薬王院で一番売れているお土産品である。

この商品を企画開発、販売するMNHは、「地域の資源と課題をお金と雇用にかえる」をモットーに、若い人たちが雇用されるだけでなく、自ら経営者となる社会起業家を育て、彼らが新たな若者を雇用していく新しい社会モデルの創出と全国波及を目指すソーシャルビジネスカンパニーである。その社会モデルの一つとして「天狗の鼻」を企画している。

西東京市（当時田無市）に生まれ、ずっと多摩地域で過ごしてきた。学生時代から八王子のNPO法人「チェロ・コンサートコミュニティー」に関わり、そのままNPOの事務局職員として働いてきた。同NPOでは、国際チェロコンクールを開催してきた。このNPOでの経験がMNHの商品企画にも活かしている。

イベントは、地域の人々の「関心ごと」にならない限り、一部の人のモノで終始し、みんなのモノにはならず地域に根付かない。

特産品・お土産品を企画、販売するモデルを通じて、多摩地域を代表するお土産品を作る。その時に、NPO時代に感じた「関心ごとにする」というキーワードと、地域の資源と課題を結び付けてお金と雇用に変えるモデルが結び付いた。

商品の生産過程に多様な人々の参画を募ることで関係者を増やした。また参画を募ることで社会の課題が少しでも解決するものであればと、包装作業に福祉作業所、納品・在庫管理にコミュニティカフェ

や配食サービスを行うNPOに関わってもらった。どちらも、ボランティアではなく工賃等を支払う。

そして、多摩地域にある食材や素材とコラボレーションして新しい味を作ることもはじめた。

あきる野市にある東京唯一の醤油醸造元・近藤醸造さんとの「しょうゆかりんとう」、日野市のいちご農家さんや日野市、農協などと協力してつくった「いちごかりんとう」など、いずれも地域のお土産品として売れている。

お土産品を地域の関心ごとにするには、地域の手土産にすることが狙い。手土産になり、地域に愛されるお土産品になれば多摩地域を代表するお土産になりうる。地域外の人にも訴求できる。

そして全体としての販売量が増えれば、関わった人々のお金にかわる。

MNHはこのモデルの中心に位置し、問屋のような役割を担う。売れる事を保証し、みんながハッピーになる事業の仕組みをつくる。

地域には良い資源がまだまだたくさんある、そして解決しなければならない課題もたくさんある。しかしそれをちゃんと、具体的な事業を通じてコーディネートしてあげれば、新しい価値が生まれる。この価値を生むポジションにこそ、若い人が活躍できる、起業できるチャンスがあると考えている。

「地域若者商社」と呼び、今後、全国へこのモデルの展開をすすめる。そして多摩地域ではこのモデルの更なる深化と新しいモデル作りを進めている。



天狗の鼻 酒の華といちご

歴史／多摩川

あばれ川＝多摩川



NPO 法人多摩川エコミュージアム
理事長 長島 保
(地域史研究家)

大田区田園調布に、多摩川台公園がある。その段丘の上から見下ろした多摩川の流がすばらしい(写真)。本瀬がゆったりと流れ、四季折々の美しさを見せてくれる。



①多摩川台公園の段丘から多摩川を望む

とりわけ茜色に包まれる夕景がなんともいえない。この景観、30年近く前に、多摩川八景の一つに選定された。

しばし見とれてみると、かつて眼下の平地を、ときおり荒れ狂うように乱舞した「あばれ川」の面影などみじんも思い浮かばない。

段丘を下りて、隣りに続く浅間神社の麓へ回ると、かたわらの木立に包みこまれるようにして、丈余におよぶ石碑が、多摩川に向かって立っている。「多摩川治水記念碑」と大きく刻まれ、脇に内務省東京土木出張所長辰馬健蔵書とある。

この碑、国の直轄工事として、足かけ16年余の年月を費やして竣工した多摩川下流改修工事の記念碑なのだ。碑陰では、この工事が1918(大正7)年に始まり、1934(昭和9)年3月に竣工したことを記している。

実は、多摩川下流域一帯の平地は、この河川改修工事によって近代的築堤が完成するまでは、しばしば氾濫・洪水に見舞われ、沿岸住民たちは長い間、水害に



②明治43年水害で冠水した東海道
(川崎市編『20世紀のかわさき』から)

苦しんできたのだ。写真では、明治43年大水害で、冠水した東海道の道路(川崎区八丁噺付近)を人びとが歩いている。とにかく、頻発する多摩川の水害は、沿岸住民らの生活を根底から破壊し、多くの尊い人命を水魔に飲み込んできた。

日本のほとんどの河川がそうであるように、多摩川もまた、古来から大雨が降るごとに、出水・氾濫を繰り返す「あばれ川」だったのだ。古い地形図を見ると、かつての多摩川は、その河身を蛇行させて流れ、両岸には広大な河川敷・氾濫原を広げていた。

湾曲した道路や各所に散在する自然堤防、さらには河跡湖の存在などを見るにつけ、多摩川は両岸に広がる氾濫原を思いのままに流れ下っていたものと思われる。その流路変遷が、時には一つの村を分断した。それが、両岸に同じ地名や類似の地名を残したのだ。下流域だけに限っても、下図に整理することができる。

近代に入り、東京・神奈川の府県境界は、一応多摩川と定まった。だが、江戸時代からの旧慣による飛び地が両岸に残り、行政上の管轄違いを生み、大きな障害となってきた。この飛び地整理が、多摩川改修運動の一環として展開、やがて「河身中央線ヲ府県境界線トスル」法律の施行を実現し、飛び地問題は解消した。

多摩川両岸に残る同じ地名

左岸〔東京都〕	→	右岸〔川崎市〕
大田区旧古市場	→	幸区 古市場・東古市場
〃 旧上・下沼辺	→	中原区下沼部
〃 下丸子	→	〃 上丸子・中丸子
世田谷区等々力	→	〃 等々力
〃 野毛・上野毛	→	〃 下野毛
〃 瀬田	→	高津区瀬田
〃 宇奈根	→	〃 宇奈根
狛江市元和泉・中和泉	→	多摩区和泉
〃 東和泉・和泉本町	→	
調布市布田	→	〃 布田



秋川下流域 平井川流域

多摩川最大の支流の秋川は五日市盆地に入るとコの字を繰り返すような蛇行しながら固い石灰岩を侵食しながら流れ下る。JR五日市線秋川駅付近から下流域は豊かな田園地帯となり、ところどころに大規模開発の工場団地や商業施設が風景を変え始めている。

一方多摩川と秋川の間に流れる平井川は日の出山を源流として石灰岩の山中を大急ぎで下り沢山の絶景を作っている。下流域はこれら3川の豊かな水が育む農村地帯となっている。



① **金剛の滝** 秋川の支流逆川の源流の滝。滝の横には苔むした金剛像が見下ろしていた。2段の滝の上の滝で下の雄滝とは急坂のトンネルで結ばれている。



⑦ **大悲願寺** 五日市駅の北側丘陵にある名刹。この無畏閣は建て替えられ極彩色の彫刻になっているが、自分はこの古いほうが好み。



③ **金比羅山より五日市市街地** JR五日市駅よりよく整備されたハイキングコースを約1時間。山桜の頂上からの展望は素晴らしく、五日市市街は五日市湖が埋まってできた盆地であることがわかる。



⑬ **日の出山荘** 中曽根康弘元総理の山荘で、今は日の出町に移管され自由に見学できる。この青雲堂はロンヤス会談が行われた庵。ほかにもゴルパチョフとの会談した部屋など日本の現代史の1ページ。



⑤ **都立小峰公園** 五日市駅の南側の丘陵帯にある広大な自然公園。さくらや梅モジなど季節ごとに彩りを変える里山。このスケッチはケヤキ冒険広場と言われている区域。



② **小和田橋** 春の桜花と柳の新緑、夏は川遊びと花火、秋は水面に映る紅葉と四季それぞれの楽しみ。流れは緩やかで、フナやハヤあるいはウグイなどが群れて遊んでいるのが手にとれる。



⑥ **横沢入 中央湿原** 大悲願寺裏にある都保全里山地区。東京サンショウウオ他貴重な動植物の宝庫。ボランティアの人たちが管理している。



④ **阿伎留神社** あきる野市の名前の由来の一つとなった神社で、平安時代よりの歴史を持つ。大悲願寺裏山より産出する伊奈石を大量に使っている。



⑦ **平高橋～多西橋 桜並木** 増水した平井川にかかる多西橋の両岸は平高橋まで続く華やかなメイヨシノ桜のトンネルとなり、夏は涼やかな木陰の遊歩道。

たまがわスケッチ散歩 (7)

画と文 野尻明美 (のじりあけみ)

よみうりカルチャーセンター 講師
一級建築士、工学博士 (東北大学)
科学技術庁長官賞、紫綬褒章 受章
東急ハンズ大賞クラフトの部 入選
「水彩スケッチと10の活用術」日貿出版社、
他技術書多数



11 勝峰山 かつほやまと読むらしい。山道が整備されていないのでたどりつくのは大変ではあるが、頂上からの眺望は見事。周囲は山桜の古木の林、立派なベンチや案内板があり、山道は奇妙な形の石灰岩が並んで出迎え歓迎している。



12 白岩の滝 平井川の源流の滝。日の出つるつる温泉の手前からタルクボ沢沿いの日の出山登山道脇にある。数十m続く滑滝(なめたき)群の総称。



10 熊川鉄橋 多摩川沿いで最も美しいと地元では自慢する桜の並木。正面には雪の帽子をかぶった霊峰富士山 右にJR五日市線の熊川鉄橋がある。左岸河川敷は多摩中央公園と呼ばれるスポーツ公園で湧水を集めたホテルの里になっている。180度の超パノラマ。



9 六枚屏風岩 秋川の急流が草花丘陵に当たり侵食された山肌が痛々しい。その対策工として、画面中央に丸太を三角に組んで作る整流装置の聖牛が整列している。遠景はサマーランド。



14 大久野の山藤 都の天然記念物、樹齢400年と言われ周囲の杉の林に絡み付いて我が物顔に自己主張している。最近公園として整備されつつじとの競演となっている。



8 山田大橋 JR武蔵五日市駅より約10分。広々とした秋川の河原を両側の河岸段丘から一気にわたる大橋。下には山田堰がある。



10 東秋留橋 左側のコンクリートアーチ橋は「近代土木遺産」に登録されている名橋。それに代わる新橋が右の鉄骨ボックス梁



15 塩田耕地 町役場を中心として、森林組合農林試験所、農林総合センターなどなど日の出町行政の中心地であり、平井川の堤にはソメイヨシノ桜の若木が元気良く育てられている。



18 平井川・多摩川合流地点 今はほとんど見なくなったばかりに出会ったほどこの辺りは広大な野鳥の天国。描いているところは昭島市の水鳥公園の中。

環境 TOPICS

オイスカ、宮城県名取市で10カ年の
海岸林再生プロジェクトを推進中



公益財団法人オイスカ
「海岸林再生プロジェクト」
海外広報担当
ボランティアスタッフ

鈴木 昭

昨年3月に起こった東日本大震災の津波により青森県から千葉県までの約140kmに及ぶ海岸の防災林も大きな打撃を蒙りました。特に大きなダメージを受けたのが宮城県沿岸で、実に1,753haの広大な海岸林に深刻な影響が生じています。

オイスカは、長年にわたる海外での植林活動の経験を踏まえ、震災発生直後から林野庁長官に対し、復興支援活動として



東北海岸林の再生について協力の申し出を行い、さらに宮城県名取市の被災住民代表からの強い協力要請を受けた後には、国、関係自治体、地元の林業事業者や被災住民達と密接な協議を重ねると共に、現地へ調査チームを数回派遣し、海岸林の被害状況、塩害、飛砂、気象状況などについて必要なデータを収集するなど準備を進めて来ました。

海岸林を再生すると言葉で言うのは簡単ですが、実際には莫大な費用の捻出、大勢の人手の確保、苗木の確保、他の復興事業との調整など数多くの難問が横たわっており、とても生易しいことではありません。NGO一団体が単独で膨大な事業に取り組むことは不可能です。特に宮城県の場合には、塩害に強く、松くい虫などの害虫に対し強いと言われている抵抗性クロマツの苗木の供給が絶対的に不足しており、植林候補地の整備の遅れもありすぐに植林に着手するというような状況にはないことが判明しました。

そこで、オイスカは、関係機関や被災住民代表との協議、現場調査並びに部内での詳細な検討の結果を「海岸林再生プロジェクト10カ年計画」として取り纏め、昨年9月末に公表しました。その骨子は、国



の全体的な震災復興計画に沿って名取市の関上北釜地区の全長約5km、100haの海岸地域を対象に2020年までの10年間にクロマツを中心とした

50万本の苗木を育苗し、植林・管理するために必要とされる10億円の資金を国内・海外の企業、団体あるいは個人の支援者に寄附を呼びかけて確保し、復興を支援しようとするものです。その第一歩として、被災農民の方々の生計支援策として不足しているクロマツなどの苗木育成事業を開始しました。これらの被災住民有志の方々は、昨年末に宮城県山林育苗生産事業者登録講習会を受け、プロの育苗専門家の指導の下で育苗技術の実践的な研修を積みました。今年の3月30日には、名取市内にある育苗場2カ所で被災住民の方々が中心となって結成された「名取市海岸林再生の会」関係者によって初めての種播き(16万粒)が行われました。その後種は発芽し、現在、5-6cm程度の苗木に育っています。しかし、これらの苗木が順調に育ったとしても実際に植林が可能となるのは、3年後の2014年と相当時間がかかる事業です。

はたして、今後、苗木が害虫や気候の影響を受けないで無事にすくすくと育つか、10億円もの資金を本当に確保できるかどうかなど未知数の要素がありますが、オイスカの関係者は、元の海岸林を取り戻したいと願っている地元住民の強い思いにできる限り応えたいと決意を新たにしています。



「海岸林再生プロジェクト」

<http://www.oisca.org/kaiganrin/>

寄附金の受付先口座番号

< 銀行の場合 >

三菱東京UFJ銀行永福町支店(支店番号347)

普通 0054080 公益財団法人オイスカ

(コウエキザイダンハウジンオイスカ)

< 郵便局の場合 >

00100 - 6 - 482316 公益財団法人オイスカ

インフォメ 多摩川

多摩川流域の各種団体等の9月から12月頃まで行われる環境活動に関する主な行事・イベント情報を紹介いたします。

☆ 美しい多摩川フォーラム

- 大人のためのカヤック体験教室（9月17日、青梅市大柳町・多摩川釜の淵川原）
 - 多摩川“水”大学講座（9月21日：調布市文化会館たづくり学習室）
 - 第5回たまリバー50キロ命名記念・RUN&WALK（10月13日：大田区～羽村市）
 - 多摩川“水”大学講座（10月19日：調布市文化会館たづくり学習室）
 - 多摩川“水”大学講座（11月16日：調布市文化会館たづくり学習室）
 - 京王クリーンキャンペーン共催（11月上旬、多摩市）
 - 美しい多摩川クリーンキャンペーン月間（11月）
 - 第5回多摩川子ども環境シンポジウムを開催（12月8日 昭島市フォレスト・イン昭和館）
- （問い合わせ先） 美しい多摩川フォーラム事務局（青梅信用金庫 地域貢献部内）
 担当：宮坂ノ土方ノ及川

TEL：0428-24-5632 FAX：0428-24-4650

E-mail：forum@tama-river.jp URL：http://tama-river.jp

☆ 多摩川源流研究所

- 第1回多摩川源流・緑のボランティア
 - 主催：NPO法人多摩源流こすげ・多摩川源流研究所
 - 協力：小菅村役場・多摩川源流大学
 - 場所：小菅村村内
 - 日時：9月22日（土）23日（日）
- 第2回多摩川源流・緑のボランティア
 - 主催：NPO法人多摩源流こすげ・多摩川源流研究所
 - 協力：小菅村役場・多摩川源流大学
 - 場所：小菅村村内
 - 日時：10月6日（土）7日（日）
- 第3回多摩川源流・緑のボランティア
 - 主催：NPO法人多摩源流こすげ・多摩川源流研究所
 - 協力：小菅村役場・多摩川源流大学
 - 場所：小菅村村内
 - 日時：11月17日（土）18日（日）

第4回多摩川トレイルラン大会

主催：多摩川源流トレイルラン大会実行委員会
協力：小菅村・西東京市役所トレイルランクラブ
場所：山梨県小菅村
日時：9月16日(日)

多摩川源流景観シンポジウム

主催：小菅村源流景観協議会
協力：NPO法人多摩源流こすげ・多摩川源流研究所・観光協会・多摩川源流大学・建設業研究会・
商工会・女性の会他
記念講演：中村 良夫先生 「源流景観の特性 その保全と活用法を考える」
場所：小菅村体育館
日時：9月29日(土)

第3回全国源流サミット

主催：第3回全国源流サミット現地実行委員会
共催：津野町・全国源流の郷協議会・NPO法人全国源流ネットワーク
場所：高知県津野町海洋センター(四万十川源流)
日時：10月20日(土)21日(日)
連絡先：電話 0889-55-2311 FAX 0889-55-2022

(問い合わせ先) 多摩川源流研究所 担当 中村文明

TEL 0428-87-7055 FAX 0428-87-7057

E-mail genryu@ec3.technowave.net.jp URL : <http://www.tamagawagenryu.net>

☆ 多摩川大学ふれあい移動水族館

- 9月2日(日)ふれあい移動水族館 東京都知的障害者育成会 高砂福祉館
- 9月5日(水)ふれあい移動水族館 宿河原幼稚園
- 9月6日(木)ふれあい移動水族館 きたかしわ幼稚園
- 9月8日(土)ふれあい移動水族館 小平市 友・遊こどもまつり
- 9月8日(土)ふれあい移動水族館 川崎市 平和館
- 9月10日(日)多摩川自然観察会
- 9月12日(水)ふれあい移動水族館 いそべ幼稚園
- 9月15日(土)～16日(日)ふれあい移動水族館 生田高校文化祭
- 9月16日(日)ふれあい移動水族館 多摩区役所たまたま子育て祭り
- 9月23日(日)おさかなポスト観察会
- 9月30日(日)多摩川自然観察会
- 10月3日(水)～4日(木)エイリアン料理を食べる会 震災被災地支援事業 津南町

- 10月6日(土)～7日(日)ふれあい移動水族館 川崎市マリエン みなとまつり
10月10日(水)ふれあい移動水族館 浦安市日の出小学校
10月14日(日)ふれあい移動水族館 東日本大震災支援事業 福島須賀川市 第36回「子どもの祭典」
10月20日(土)ふれあい移動水族館 J×日鉱日石エネルギー 子どもまつり
10月21日(日)ふれあい移動水族館 麻生区柿生まつり
10月25日(木)高津区 多摩川の話講演会
10月27日(土)～28日(日)ふれあい移動水族館 足立区環境フェア
10月28日(日)ふれあい移動水族館 多摩区民祭
11月2日(金)～4日(日)ふれあい移動水族館 川崎市民まつり
11月8日(木)黒岩知事との“対話の広場”地域版 エポックなかはら
11月11日(日)アユの産卵場観察会
11月18日(日)アユの産卵場観察会
11月22日(木)ふれあい移動水族館 町田市立金森保育園
11月25日(日)多摩川釣り大会
12月4日(火)ふれあい移動水族館 淵野辺幼稚園
12月13日(木)～15日(土)エコプロダクツ
12月23日(日)多摩川自然観察会 バードウォッチング冬鳥
12月31日(月)多摩川0キロメートル感謝祭

(問い合わせ・連絡先) 上記イベントは、いずれも予定です。詳しくはメールか電話で問い合わせ下さい。

また、各イベントは多摩川大学内下記学部共同で実施です。

NPO法人おさかなポストの会 学部

NPO法人いきものふれあい教室 学部

水辺の安全教育委員会 学部

多摩川ジュニアガイド・サークル 学部

ふれあい移動水族館 学部

* ふれあい移動水族館・おさかなポストの会 代表 山崎充哲

メールアドレス RiverRanger777@gmail.com TEL: 090 - 3209 - 1390

☆ 財団法人 世田谷トラストまちづくり

野川せせらぎ教室「野川の秋の植物で遊ぼう！」～世田谷区成城四丁目付近の野川

・10月28日 午前9時30分～11時30分 要申込

秋のバードウォッチング<親子観察会>～野川周辺

・11月24日 午前9時30分～11時30分 要申込

世田谷トラストまちづくりビジターセンター「身近な自然と触れ合うミニイベント」～世田谷区成城4-29-1(野川沿い)

・原則毎月第1土曜日 午後1時30分～3時 要申込/TEL03-3789 6111

(申込・問い合わせ先)(財)世田谷トラストまちづくり トラストまちづくり課

TEL03-6407-3311 FAX03-6407-3319

財団HP <http://www.setagayatm.or.jp/>

☆ GeoWonder 企画 むさしの化石塾

テーマ「多摩川の化石から、古環境を復元しよう」

多摩川で採集した化石教材をヒントに、環境教育や自然科学の学習を行っております。ご関心のある方は、お気軽にメールにてお問い合わせ下さい。

当日の教材内容は、後日参加予定者にご案内します。

開催予定日(9月～12月) 室内作業 開催日:9/22(土) 10/27(土) 11/17(土)
12/15(土)

日時:14時00分～16時00分(2時間)

場所:〒208-8503 武蔵村山市学園4-5-1 武蔵村山市民総合センター内2階作業室

電話:042-590-1430

最寄:市内循環バス 武蔵村山市民総合センター前下車 バス停下車徒歩1分

参加費:1,000円

都度5名定員締め切り 要・事前申し込み 連絡先:geo@extra.ocn.ne.jp

メールにて住所・氏名・学年など、連絡先を明記の上、送信下さい。

最新日程は「むさしの化石塾ブログ」でご確認ください。

(申込・問い合わせ先) むさしの化石塾 福嶋まで

携帯:090-1769-8020 FAX:042-567-1095

Web 申込 E-mail:geo@extra.ocn.ne.jp まで

財団からのお知らせ — 助成研究募集のご案内 —

多摩川およびその流域の環境浄化に関する 基礎研究、応用研究、環境改善計画のための研究・活動助成の募集

公益財団法人とうきゅう環境財団（理事長 西本 定保）は、1975年（昭和50年）より、多摩川およびその流域の環境浄化の促進や自然環境の保全などに必要な調査や試験研究を毎年公募してきています。その結果、これ迄に1,131件（新規・継続—学術研究711件、一般研究420件、13億4千万円）の調査・試験研究のお手伝いをさせていただきました。

2013年（平成25年）4月からの助成についても、従来と同様、意欲的な調査や試験研究を募集致します。

1. 応募資格者

下記研究対象テーマに掲げた調査や試験研究に意欲のある方であれば、どなたでもご応募いただけます。

2. 助成研究対象テーマ

産業活動または住生活と多摩川およびその流域との関係に関する調査および試験研究
排水・廃棄物等による多摩川の汚染の防除に関する調査および試験研究
多摩川およびその流域における水の利用に関する調査および試験研究
シンポジウム、音楽会あるいは出版等による環境啓発活動や、歴史的な遺産あるいは社会システムの維持保全・回復運動等、多摩川及びその流域における環境保全や文化の創造に広く寄与するもの。

3. 応募方法

当財団所定の申請書に必要事項を記入、捺印の上、財団宛ご提出下さい。

「募集要項」「申請書」はホームページ上からダウンロードして下さい。

<http://www.tokyuenv.or.jp/invite>

4. 助成の決定

2013（平成25年）年3月に開催予定の当財団選考委員会で選考のうえ、理事会に諮って最終的に決定致します。

5. 応募締切日 2013（平成25年）年1月15日（火）

6. 応募にあたっての注意事項

ご応募にあたっては当財団の定める「調査・試験研究助成に関する調査・試験研究の選定基準、助成の方法、調査・試験研究の実施方法、助成金の支払い方法ならびに調査・試験研究者の個人情報保護の方法に関する規程」を必ずお読み下さい。

過年度に不採用となった調査や研究の再応募は受付ておりませんので、同一の調査・試験研究課題で再応募される場合は、前回のものと調査や試験研究の内容のちがいがよく判るよう工夫して、申請書をご作成下さい。

（次ページへ続く）

7. 助成研究の種別と諸条件

研究の種別	学術研究	一般研究
研究の区別	環境問題改善のための調査や試験研究で、専門性が高く、その分野の学識経験を必要とするもの。 (財団のホームページで過去の研究事例をご参照下さい)	環境問題改善のための調査や試験研究で、一般の市民が、特別な学識経験を必要とせず取り組めるもの。
1件当たりの助成金総額の上限額	400万円	100万円
単年度の助成金上限額	200万円	100万円
研究期間	最長2ヶ年	最長2ヶ年
助成対象費目	直接研究に使用する器具備品で一個、又は一式10万円以上の固定資産。 調査や試験研究に用いる各種材料、部品、薬品等。 調査や試験研究のための交通費、宿泊費等。 調査や試験研究のために臨時に雇った人の謝金等。 器械・設備などの賃借料、通信費、その他。	
尚、一般研究については、従来からの調査・試験研究に加えて、シンポジウム、音楽会あるいは出版等による環境啓発活動や、歴史的な遺産あるいは社会システムの維持保全・回復運動等、多摩川およびその流域における環境保全や文化の創造に広く寄与すると思われるものも選考の対象といたしましたので、奮ってご応募下さい。		

「いきもののつながり」環境紙芝居 15のおはなし

No.8 雑木林の夏のいきものの様子

夏の雑木林は生命の息吹であふれています。草木の葉は青々と茂り、花を咲かせているものもあります。

クヌギの幹から流れ出した樹液には、カブトムシを始め多くの昆虫がやってきます。木の幹から汁を吸うセミの仲間や、花から蜜を吸うチョウたち、蜜や花粉を巣に運んで子育てをするマルハナバチの仲間、草木の葉を食べるチョウやガの幼虫など、多くの昆虫が植物に支えられて暮らしています。

でも中には、植物を食べて育った昆虫を食べる肉食性の昆虫もいます。代表的なのは、トンボの仲間やアシナガバチなどの仲間です。トンボの仲間の幼虫はヤゴと呼ばれ、水中で小動物を食べて育ち、成虫になると飛び回って他の昆虫を捕らえます。アシナガバチやスズメバチの仲間の幼虫は、働きバチに運んで来てもらった昆虫などを巣の中で食べて育ちます。

小鳥は、チョウやガの幼虫などをヒナに与えて育てます。シジュウカラは、産卵すると約2週間にわたって親が卵を温め、16日～20日でヒナが巣立ちます。栄養豊富な餌を与えられているとはいえ、卵からわずか1ヶ月程度で飛べるまでに育つというのは、驚きではありませんか？

タヌキは、木の実や昆虫などいろいろなものを食べます。でも、けものや野鳥の暮らしも結局は植物やそれを食べて育った昆虫によって支えられているのです。

そして、雑木林のいきものたちの生命は、太陽から降り注ぐ大量のエネルギーがその源になっているのです。



絵：東郷なりさ

「いきもののつながり」制作プロジェクト 代表 下重 喜代
発行 サステナブル・アカデミー・ジャパン
E-mail : kiyo-sun@nifty.com

- 発行日 平成24年9月1日
- 編集兼発行 公益財団法人とうきゅう環境財団
〒150-0002 渋谷区渋谷1-16-14
(渋谷地下鉄ビル 8F)
TEL (03) 3400-9142
FAX (03) 3400-9141
ホームページ <http://www.tokyuenvironment.or.jp/>

